

参考資料に対する意見は受付けしていません。

第3次筑西市総合計画策定に向けた 若者ワークショップ

報 告 書

令和7年8月
筑西市

目次

1. 概要	1
1.1. 目的	1
1.2. 日時	1
1.3. 開催場所	1
1.4. 出席者	1
1.5. テーマ	1
2. 当日の実施内容	2
2.1. プログラム	2
2.2. 当日レイアウト	2
2.3. 開会の挨拶・趣旨説明	3
2.4. グループワーク	3
2.4.1. グループワークの流れ	3
2.4.2. グループワーク詳細	5
3. ワークショップの実施結果	9
3.1. 意見の一覧（筑西市の良いところ/改善点）	9
3.2. 意見のまとめ（筑西市の良いところ/改善点）	14
3.3. 意見の一覧（困っていることとやってあげたいこと）	15
3.4. 意見のまとめ（困っていることとやってあげたいこと）	20
4. 参考資料	21
4.1. 集合写真	21

1. 概要

1.1. 目的

本ワークショップは、以下を目的として実施しました。

- ・第3次筑西市総合計画策定に向け、若者がチャレンジしたくなるまちの姿を実現するための若者目線の意見や提案を収集
- ・若者と地域との協働、市民参加の機運醸成

1.2. 日時

令和7年7月5日（土）14時00分から16時30分まで

1.3. 開催場所

スピカビル6階 コミュニティプラザ

1.4. 出席者

【参加者】

公募 8名

採用3年目までの職員 22名

【事務局】

株式会社セカンドファクトリー（齋藤、横須賀）

アビームコンサルティング株式会社（五十嵐、鳥川、榎）

筑西市総合計画担当（野口、木村、白田）

1.5. テーマ

【若者が住みたく将来のまちづくりの提案】

若者目線の筑西市の理想の未来像を『カタチ』にします。

筑西市でのチャレンジ（好き・得意を発揮する/今後やってみたいこと）を考え、参加者が未来のまちに望んでいることや、それを実現するためのアクションを考えてもらいます。

2. 当日の実施内容

2.1. プログラム

当日は以下の流れに沿って実施しました。

1. ワークショップの説明（5分）

2. 自己紹介&チームアイスブレイク（12分）

- グループ内で実施。「ワークショップに参加した理由」の共有（チェックイン）、アイスブレイクを含む。

3. グループディスカッション①（25分）

テーマ「日常生活を通して感じる、筑西市の良いところ/改善点を考えてください」

- 個人検討（10分）→グループで共有・議論（15分）
- 各自の意見をポストイットに記載し（良いところは青/改善点は黄）、模造紙に貼る。

4. 中間発表（5分）

- ディスカッション①を通しての、「全員にシェアしたい・驚いた・共感性が高い内容」を簡単に発表する。

5. インスピレーショントーク（10分）

- 若者がチャレンジしたことを紹介する。（トーク&インタビュー）

休憩（10分）

6. グループディスカッション②（40分）

テーマ「筑西市でチャレンジする若者にしてあげたいことを考えてください」

- 個人検討（10分）→グループで共有・議論（25分）→投票・発表準備（5分）
- ワークシートに各自の意見に記載し、模造紙に貼る。「全員にシェアしたい意見」に投票する（シール使用）。

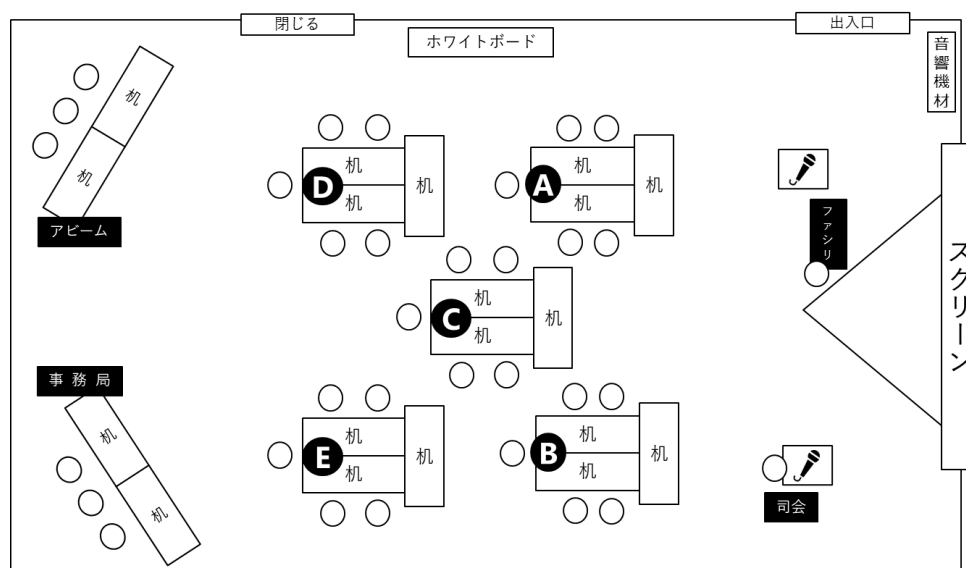
7. 最終発表（17分）

8. チェックアウト（11分）

図表 1 当日の流れ

2.2. 当日レイアウト

当日は以下のレイアウトで実施しました。参加者を5グループに分け、1グループあたり6名の人数でグループワークを行いました。



図表 2 当日レイアウト

2.3. 開会の挨拶・趣旨説明

企画課長からワークショップ参加者に向けて、開会の挨拶を行いました。
また、企画課担当者から、総合計画と市民参加の趣旨を説明しました。

2.4. グループワーク

全体説明の後、参加者の自己紹介（チェックイン）を行い、グループワークを実施しました。グループワークでは、グループ毎にディスカッションを行い、最後にすべてのグループが発表を行いました。グループワークの流れと、それぞれの詳細内容は以下のとおりです。

2.4.1. グループワークの流れ

グループワークは進め方の説明から始まり、グループディスカッション①では、個人ワークを通じて考えた意見について、グループ内でディスカッションをした後、中間発表を行いました。グループディスカッション②では、①を踏まえ、個人ワークを行い、再度グループ内でディスカッションをした後、最終発表を行いました。詳細な流れは以下のとおりです。

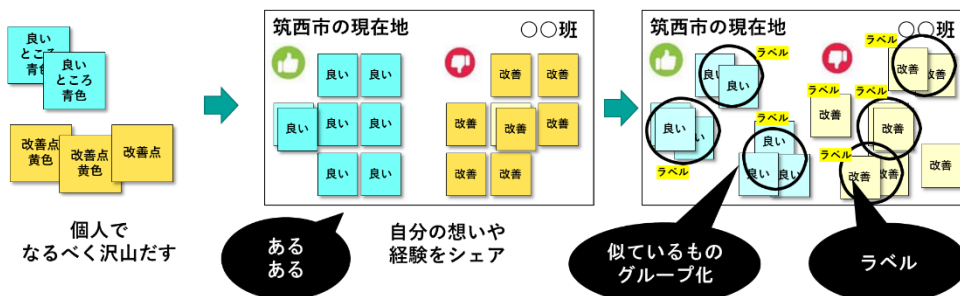
グループディスカッション①

25分

日常生活を通して感じる筑西市の 良いところ/改善点をあげてみよう

個人記入（10分）

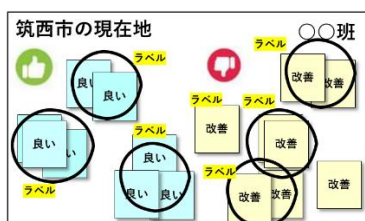
グループにシェア＆グルーピング（15分）



グループディスカッション① グループ発表

5分

筑西市の良いところ/改善点 どんなグループが見つかりましたか？



図表 4 グループディスカッション①の流れ

10分

25分

投票&アイデアの整理+未来予測 (10分)

- ・ 共感度の高いものにシールで投票(1人3個)
- ・ 支援・協力で若者はどんな変化がおきるのか?
- ・ その結果としてまちの未来はどうなるのか?

20分

若者が困っていること
求めている事

やっ^てあげたい

共感度の高かった 支援アイデア

支援・協力で変わる
若者の活躍
まちの未来

- ・ 困っていたり/求めていること
- ・ 共感性が高かったり印象的な支援や協力アイデア (どんな困りごとを解決するのか)
- ・ 若者が活躍することでまちがどのように変化していき どんな未来になるか?

図表 5 グループディスカッション②の流れ

2.4.2. グループワーク詳細

(1) 全体説明

グループディスカッションの進め方についての全体説明を行いました。実施するグループワークについての説明として、テーマやワーク時のグランドルール等の確認を行いました。



図表 6 全体説明の様子

(2) 自己紹介

最初のワークとして、アイスブレイクも兼ねて自己紹介を行いました。ワークシートを用いて、「筑西市の良いところ・改善してほしいところ」「参加した理由」「似顔絵・ニックネーム」を各人で記入した後、グループ内で自己紹介しました。



図表 7 自己紹介の様子

(3) グループディスカッション①

個人ワークで挙げた、日常生活を通じて感じる「筑西市の良いところ/改善点」をグループ内で共有しました。その後、中間発表に向け、各グループでアイデアを整理しました。



図表 8 グループディスカッション①の様子

(4) 中間発表

グループディスカッション①のまとめとして、「筑西市の良いところ/改善点」についてグループで話し合った結果を発表しました。



図表 9 中間発表の様子

(5) インスピレーショントーク

グループディスカッション②へのインスピレーショントークとして、学生を中心とした団体「ちくせい若者まちづくり会議」の元メンバーである木樽優真さん、若林伶音さんから、活動内容を紹介していただきました。若者が実際にチャレンジしてみた市への提言活動や SNS での情報発信について、また、なぜ「ちくせい若者まちづくり会議」に参加しようと思ったか、参加する上でのハードルが何だったか等をワークショップの参加者に共有しました。

若者にとって、チャレンジするフィールドは、居住地に関わりなく広く捉えていること、その上で、行政から域内外の若者への情報発信は、若者がチャレンジする大切な契機であり、また、若者やその意見をフラットに受け入れる地域や仕組みが重要であると話しました。

若者トーク

10分

筑西市でまちづくりに関する活動を行っている
若者の話を聞いてみよう

- ・どんな活動をやっているのか？
- ・どんなおもいでやっているのか？
- ・どんな課題があるのか？

若者が活躍できるまち「筑西市」の実現にむけて
どんな支援や協力ができるのか？を考えてみよう。

学生×茨城県筑西市

「ちくせい若者まちづくり会議」では、
学生目線で見つけた筑西市の魅力を SNS で発信をしたり、
筑西市のまちづくりについて、フィールドワーク等を通じて、
自由なアイデアを、市に提言してきました。

・筑西市から通学する大学生や筑西市に興味がある大学生をメンバーとし、
フィールドワークや市内グルメツアー、市民との交流会等により地域の実情に
触れ、学生の目線で発見する筑西市の魅力等を SNS で発信するとともに、
学生自ら企画する「プロジェクト（賑わいを作り出すための提案など）」を
考え、提言・実行をする。



令和6年度は
「筑西市のシティプロモーション
～わたしが20年後に残したいもの～」を
テーマに15人のメンバーがそれぞれの
提言を市長に発表しました。



@CHIKUSEI.WAKAMONO_CHIKUMARU

図表 10 インスピレーショントーク資料

(6) グループディスカッション②

グループディスカッション①を踏まえ、「地域で若者がもっと活躍できるような支援・協力のアイデア」を個人ワークで考え、グループで意見交換を行いました。最終発表に向け、各グループで発表資料の最終化を行いました。



図表 11 グループディスカッション②の様子

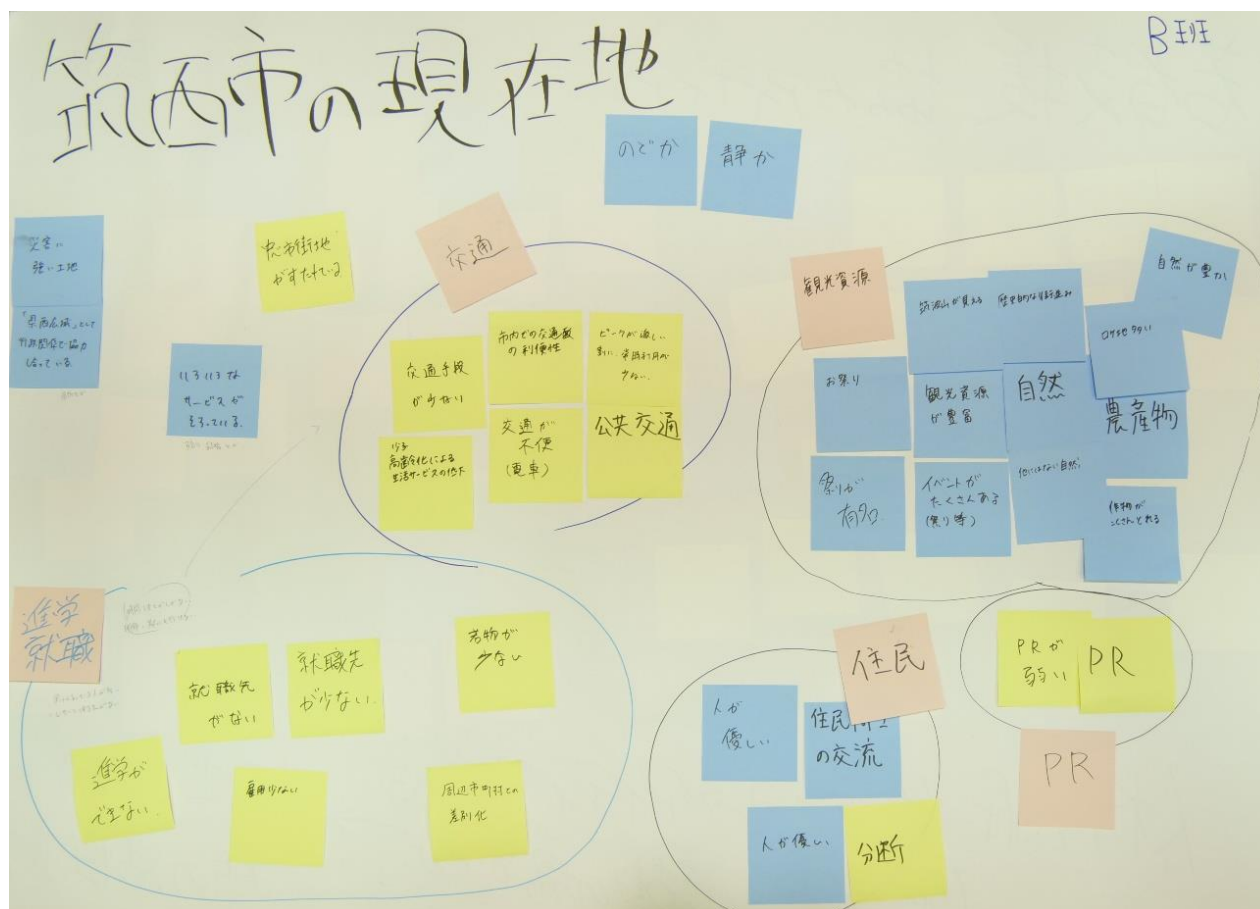
(7) 最終発表

グループワークの最後のまとめとして、地域で若者がもっと活躍できるような支援・協力のアイデアについて話し合った結果をグループ毎に発表しました。



図表 12 最終発表の様子

<B班>	
筑西市の良いところ： ・自然が豊か ・イベントが多い ・祭りが有名 ・農作物が多く取れる ・観光資源（祭り、ロケ地、歴史的な街並み）が豊富 ・人が優しい ・住民同士の交流がある ・のどか、静か	筑西市の改善点： ・就職先が少ない ・進学ができない ・若者が少ない ・交通手段が少ない ・交通の便が悪い ・PRが弱い ・少子高齢化によるサービスの低下がある



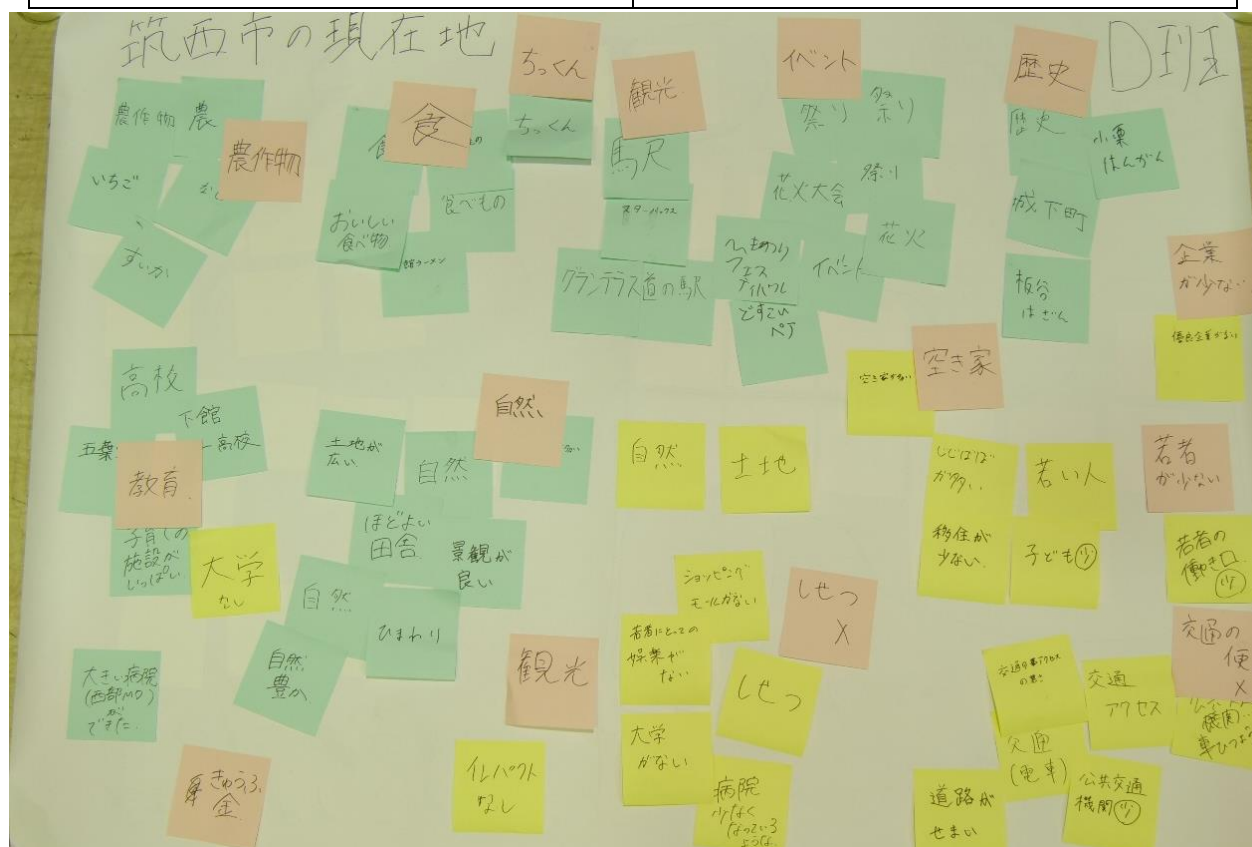
図表 14 発表用模造紙① (B班)

<C班>	
筑西市の良いところ： ・自然が豊か ・景色が良い ・住民同士の関わりが深い ・イベントが多い ・観光資源が多い ・農作物や特産品が多い ・車でアクセスしやすい ・災害に強い ・食文化がある	筑西市の改善点： ・交通機関が少ない ・交通の便が悪い ・働く場がない ・大学がない ・若者が集まる場所がない ・医療へのアクセスが困難 ・医師の数が少ない



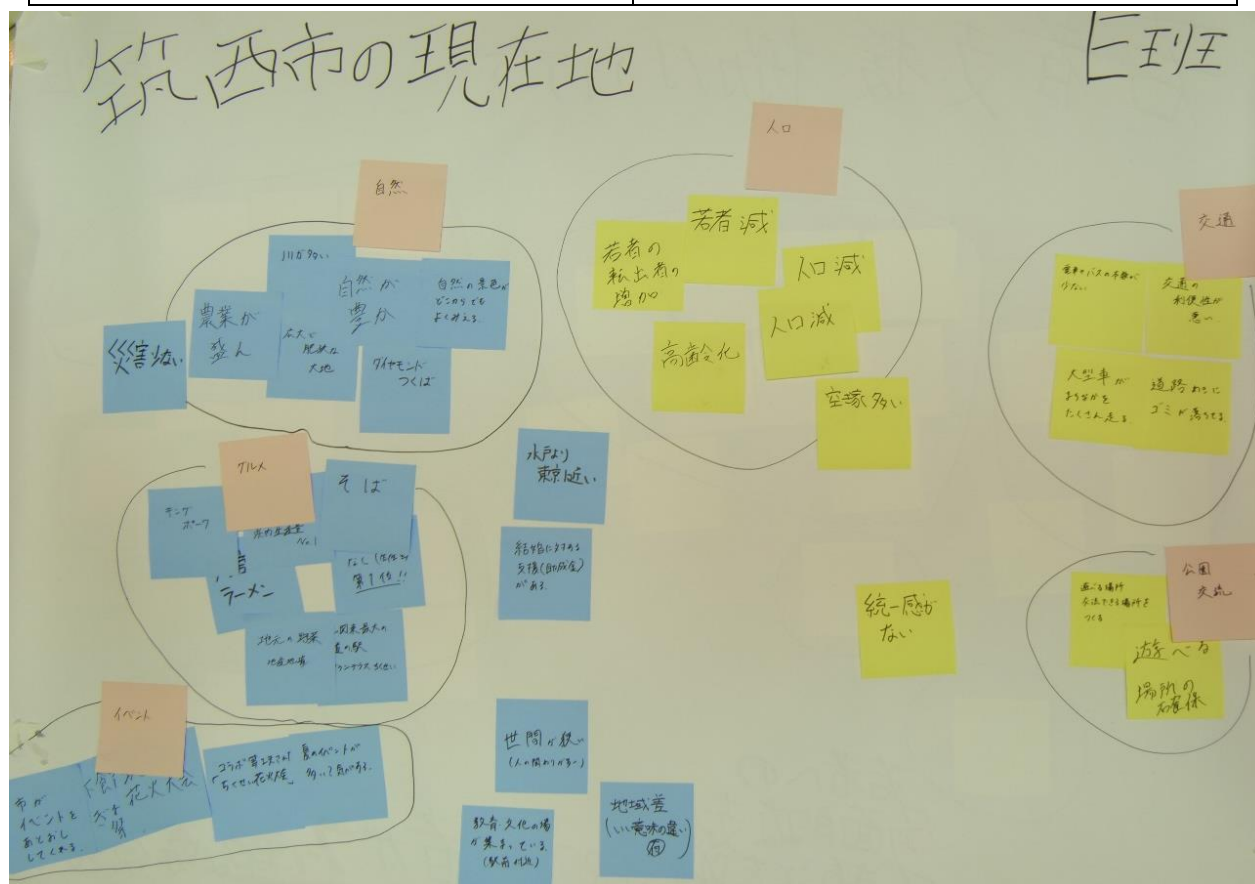
図表 15 発表用模造紙① (C班)

<D班>	
筑西市の良いところ：	筑西市の改善点：
・農作物（いちご、すいか、なし）が多い ・おいしい食べ物がある ・道の駅がある ・祭りや花火大会等のイベントがある ・歴史がある ・高校がある ・子育て施設が多い ・自然が豊か ・景観が良い	・企業が少ない ・若者の働き口が少ない ・子どもや若者が少ない ・空き家が多い ・交通機関が少ない ・交通アクセスが悪い ・大学がない ・娯楽施設がない ・病院が少ない ・インパクトのある観光資源がない



図表 16 発表用模造紙① (D班)

<E班>	
筑西市の良いところ：	筑西市の改善点：
・自然が豊か ・農業が盛ん ・災害が少ない ・おいしい食べ物（ラーメン、そば、キングポーク）がある ・夏のイベントが多い ・花火大会がある ・比較的東京に近い ・人との関わりがある	・若者が減少している ・人口が減少している ・空き家が多い ・交通の便が悪い ・道路わきにゴミが落ちている ・大型車が街中を通る ・遊べる場所がない



図表 17 発表用模造紙① (E班)

3.2. 意見のまとめ（筑西市の良いところ/改善点）

筑西市の良いところとして、自然環境に関する意見が多く出されており、食べ物や農作物に関して好意的な意見が数多くありました。魅力的な景観があることに加え、祭りや花火大会等のイベントが豊富である点も筑西市の良い点として挙げられました。

一方で、インパクトのある観光資源がないという意見や、発信力不足で筑西市の良いものが広く知られていないことを指摘する意見も見られました。

交通環境については、東京へのアクセスが良いという意見や、道の駅があることを評価する意見、車でドライブが楽しいという意見も出ました。

一方で、公共交通機関が充実しておらず、車社会のため車なしでは生活しづらいという指摘がありました。

生活環境については、住民同士の交流があり関係性が深いことを評価する声があり、「帰ってきたくなる」という意見が出ました。

一方で、医療アクセスが不便であることや空き家が多いことを不安視する意見も挙げられました。特に若者については、若者が遊べる場所や集まれる場所に加え、就職先が少なく若者が生活するための場がないと指摘されています。

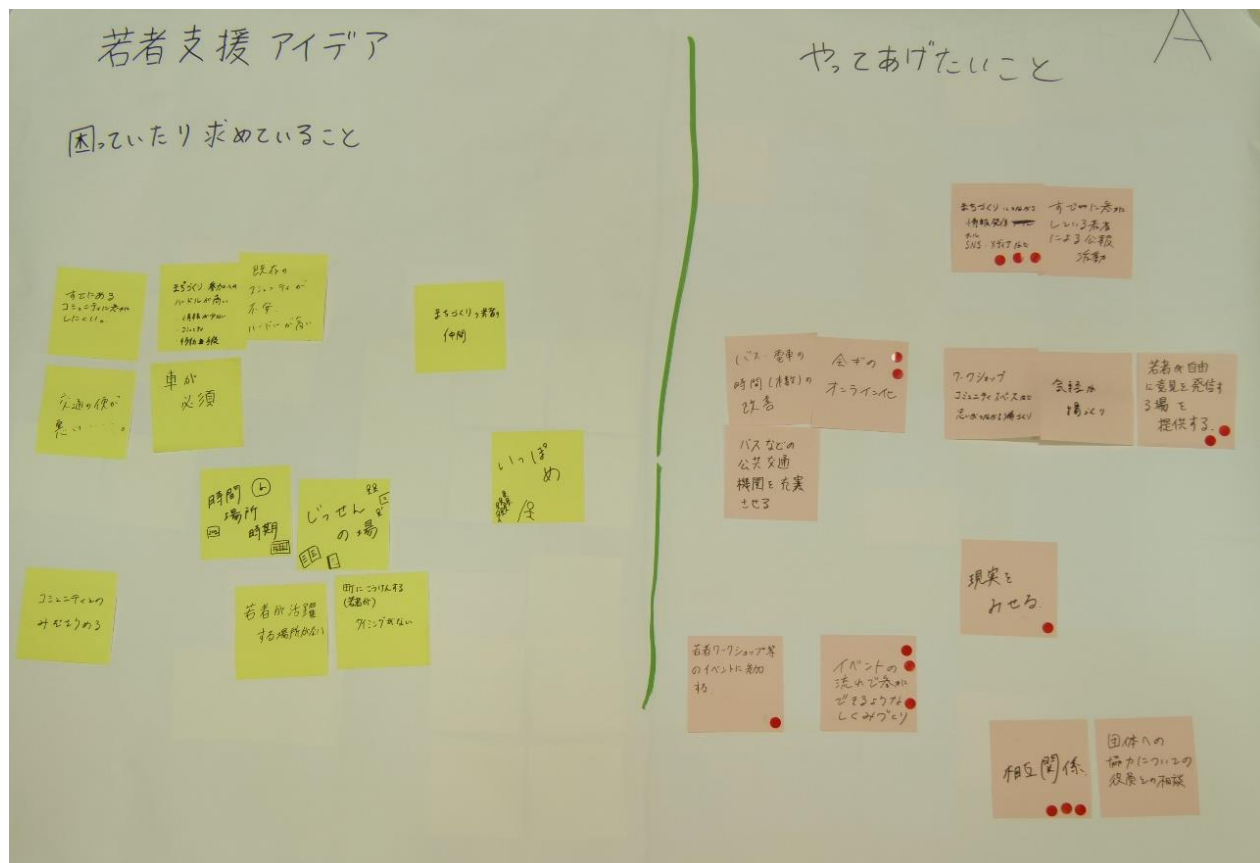
<主な意見>

筑西市の良いところ：	筑西市の改善点：
・自然が豊か ・祭り、花火大会等イベントが多い ・歴史がある ・農作物が多く取れる ・住民同士の関わりが深い ・帰ってきたくなる ・高速道路や鉄道の便が良い ・東京へのアクセスが良い ・周辺も栄えている ・ドライブが楽しい ・人が優しい ・住民同士の交流がある ・景色が良い ・観光資源が多い ・食文化がある ・道の駅がある ・高校がある ・子育て施設が多い	・発信力が不足している ・知名度が低い ・交通の便が悪く、車が必要 ・若者が遊べる、集まれる場所が少ない ・大学がなく、企業も少ない ・病院、医師が少ない ・大きな魅力がない ・スーパーしかない ・就職先が少ない ・進学ができない ・若者が少ない ・少子高齢化によるサービスの低下がある ・空き家が多い ・娯楽施設がない ・インパクトのある観光資源がない ・人口が減少している ・道路わきにゴミが落ちている ・大型車が街中を通る

3.3. 意見の一覧（困っていることとやってあげたいこと）

各グループより出された意見をまとめました。

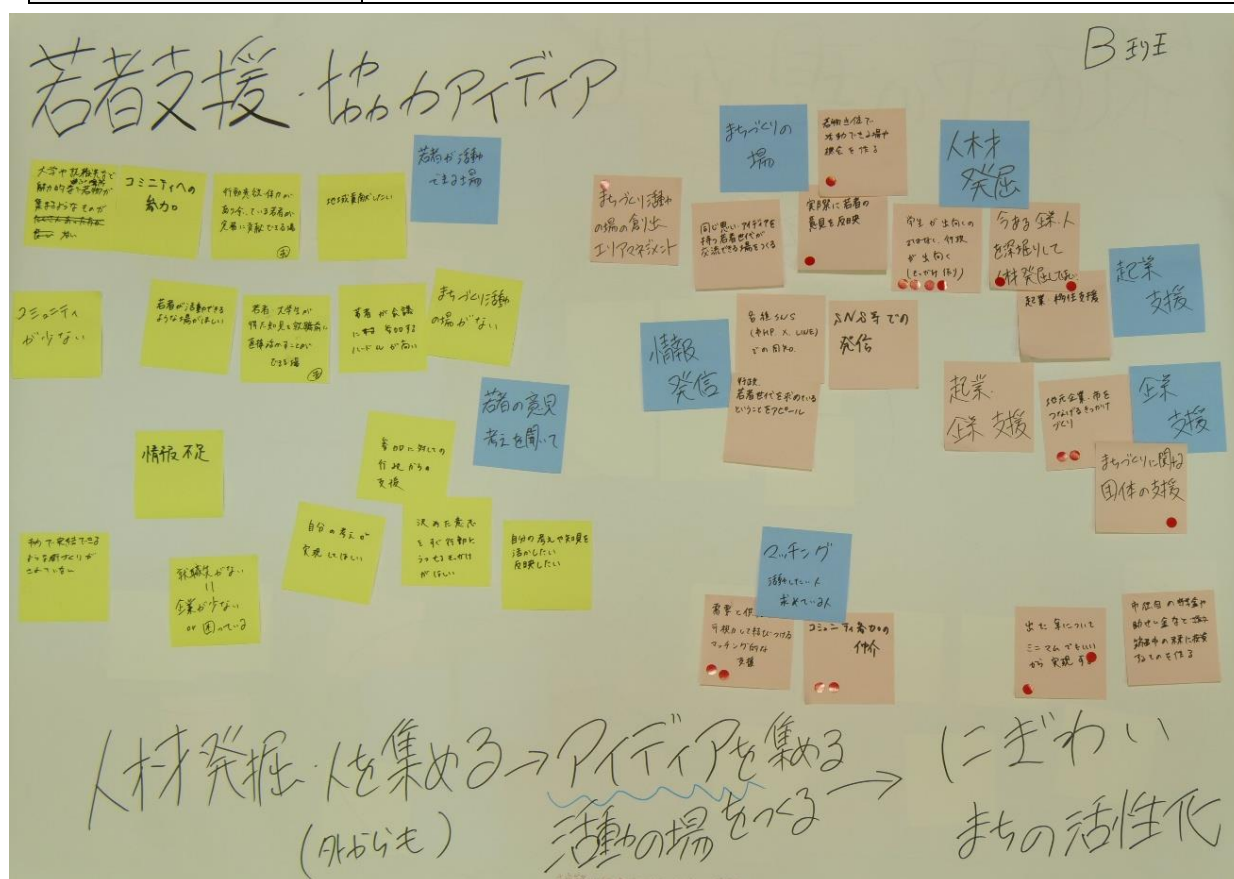
<A班>	
困っていること：	・まちづくり参加へのハードルが高い ・既存コミュニティに参加するのは不安 ・一歩目を踏み出しにくい ・まちづくりの仲間が欲しい ・交通の便が悪い ・若者が活躍する場がない
やってあげたいこと：	・まちづくりに関する情報発信 ・若者が意見を発信する場を提供する ・思いがちな場を作る ・会議をオンライン化する ・公共交通機関を充実させる ・イベントの機会にコミュニティに参加できるようにする ・行政と若者が相互に議論できる状況を作る



図表 18 発表用模造紙②（A班）

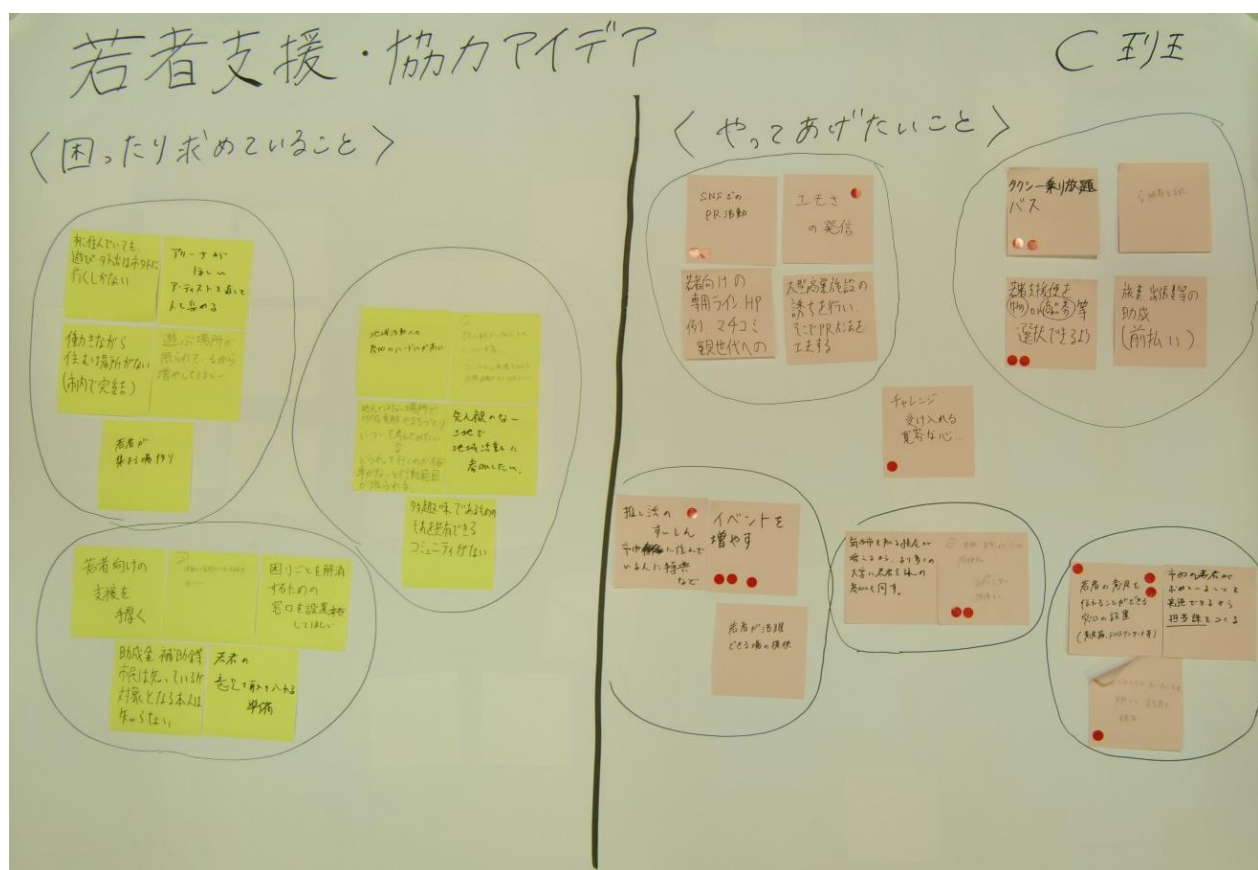
<B班>

困っていること：	・若者が実際に貢献できる機会がない ・大学や就職先等の若者が集まる場所がない ・コミュニティが少ない ・コミュニティに参加するハードルが高い ・まちづくり活動の場がない ・情報が不足している ・自分の考えや意見を反映させたい ・行動に移せるきっかけが欲しい
やってあげたいこと：	・まちづくり活動の場の創出 ・若者世代が交流できる場や機会をつくる ・行政が出向いて若者の意見をもらう ・企業や人を深掘りして人材発掘 ・地元企業とつながるきっかけづくり ・活動したい人と人材を求めている人とのマッチング支援 ・コミュニティ参加の仲介 ・出てきた意見をミニマムでも実現する



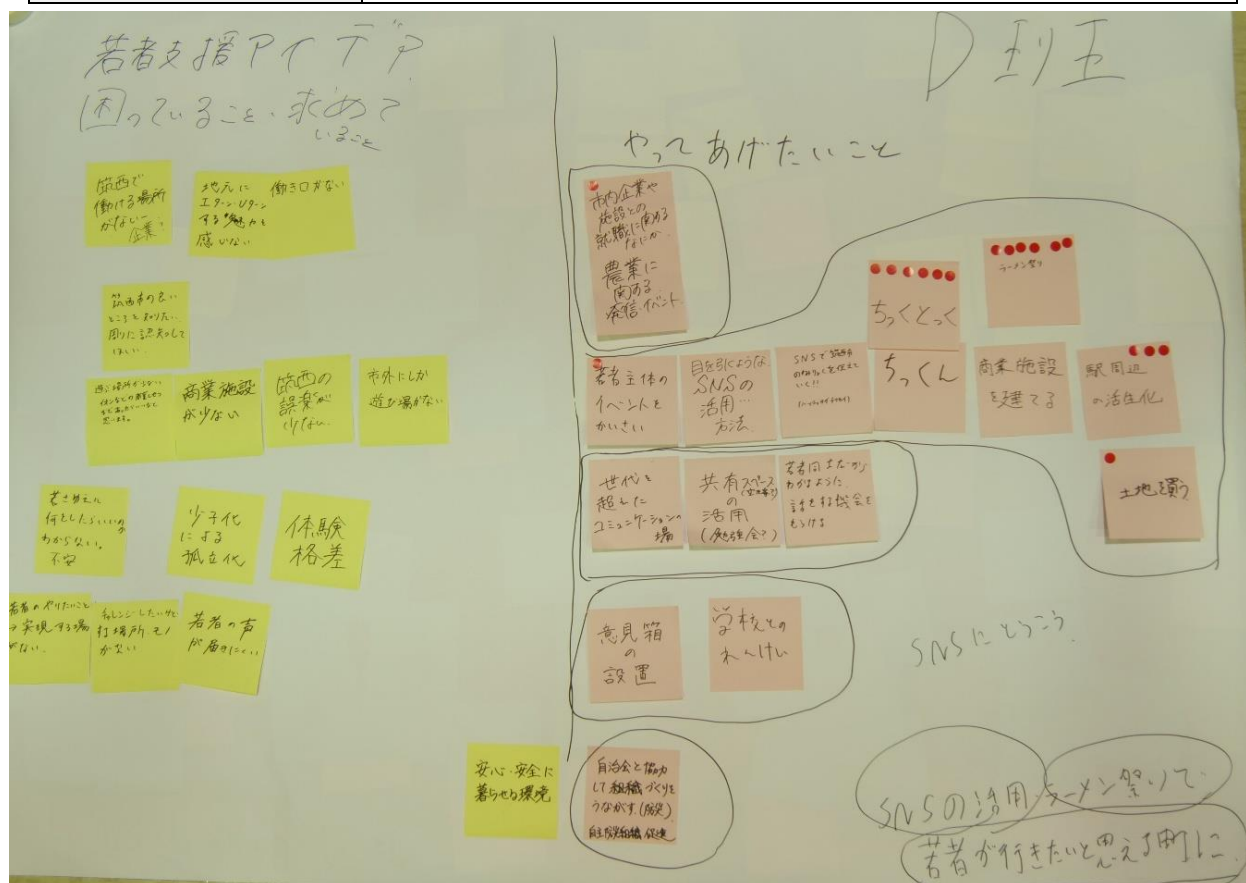
図表 19 発表用模造紙② (B班)

<C班>	
困っていること：	・遊びに行くには市外に出る必要がある ・若者が集まる場所がない ・市内で生活が完結できない ・地域活動に参加するハードルが高い ・趣味を共有できるコミュニティがない ・地元以外で地域活動に参加したい ・若者向けの支援を手厚くしてほしい ・困りごと解消の窓口がほしい ・若者の意見を取り入れる準備をしてほしい
やってあげたいこと：	・SNS でエモさを発信 ・タクシーやバスの乗り放題 ・若者支援を物品か商品券で選べるようにする ・イベントを増やす ・チャレンジを受け入れる寛容さ ・推し活の推進 ・若者の意見を伝えられる窓口の設置（意見箱やアンケート） ・クラウドファンディングで若者の活動資金を確保する



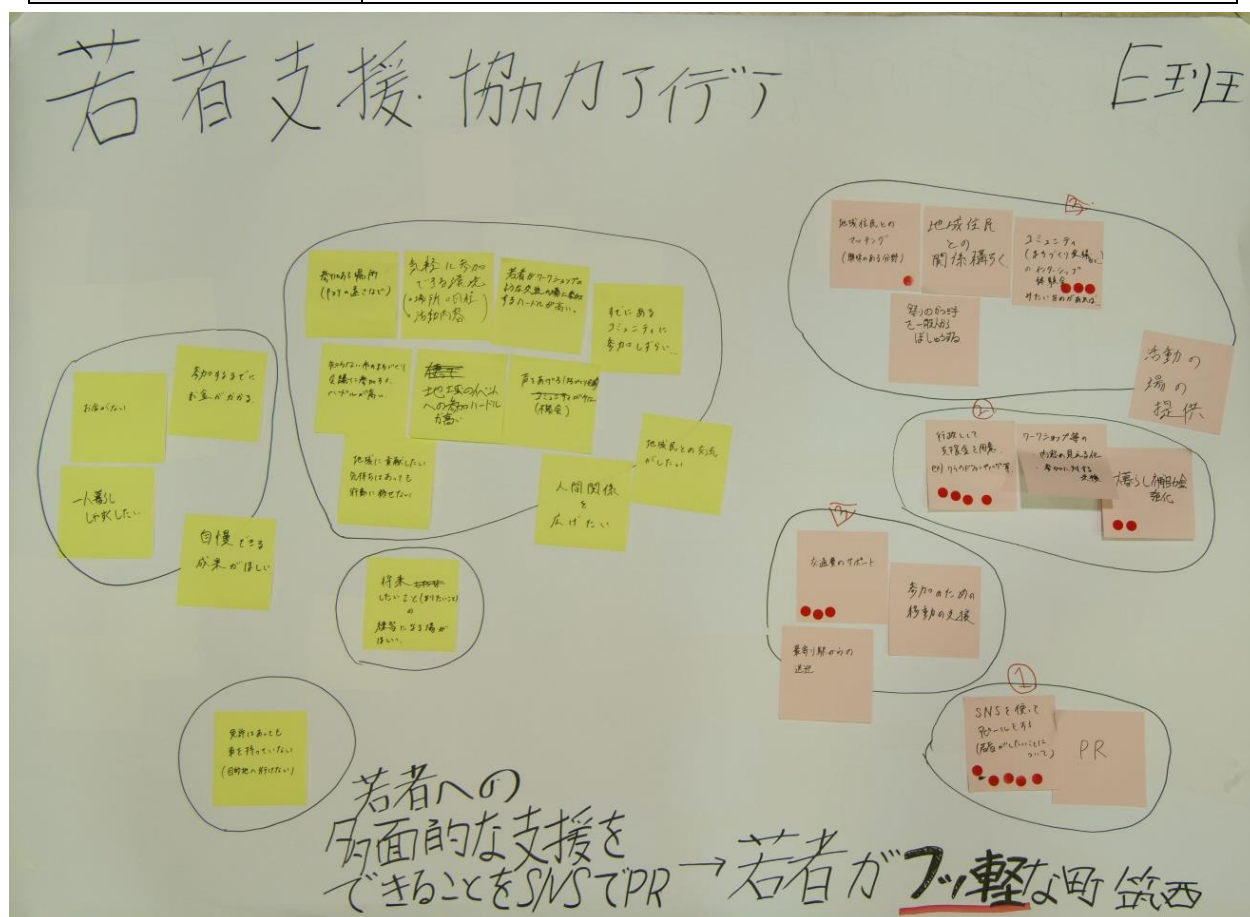
図表 20 発表用模造紙② (C班)

<D班>	
困っていること：	・市内で働ける場所が少ない ・市に戻ってくる魅力を感じない ・市の良いところを知りたい ・遊べる場がない、商業施設がない ・若いからこそ何をしたらよいかわからない ・少子化で孤立する ・若者のやりたいことを実現する場がない ・若者の声が届きにくい ・体験格差がある
やってあげたいこと：	・ちくちく（「ちくくん」のTikTok） ・市内企業や施設等と就職に関するイベント ・農業に関する発信やイベント ・若者主体のイベント ・ラーメン祭りの開催 ・駅周辺の活性化 ・土地を買う



図表 21 発表用模造紙②（D班）

<E 班>	
困っていること：	・お金がない ・一人暮らししやすくしたい ・気軽にワークショップ等の活動に参加できない ・地域のイベントや既存のコミュニティへの参加ハードルが高い ・地域貢献を行動に移せない ・声を上げる機会がない ・人間関係を広げたい ・将来やりたいことへの練習になる場が欲しい ・車がないと目的地へ行けない
やってあげたいこと：	・興味のある分野での地域住民とのマッチング ・コミュニティ体験会の実施 ・活動の場の提供 ・行政がクラウドファンディングで支援金を用意する ・一人暮らし補助金の強化 ・交通費のサポート ・SNS で若者がしたいことについてアピールする



図表 22 発表用模造紙② (E 班)

3.4. 意見のまとめ（困っていることとやってあげたいこと）

若者がまちや地域でチャレンジする上で困っていることとして、イベントや活動、まちづくりや自己実現のためのコミュニティが少ないことが挙げられました。加えて、そうした活動に参加するハードルが高いという意見も挙げられました。

また、活動するための資金がないという意見も見られたほか、若者同士や若者と市民が交流する場が不足しているとの意見もありました。

そのほか、就職先や遊びの場も少ないことから、市内で生活が完結できず、市に戻ってくる魅力を感じないという意見もありました。

チャレンジする若者にやってあげたいこととしては、若者の意見を収集・実現するための取組みや、様々なイベントの実施や相談ができる場所を作ることで、若者が情報を発信してまちづくりに関して交流・活動する場を構築したいといった意見や、既存のコミュニティ（市民団体、実行委員会等）に参加するハードルを下げたいという意見がありました。

また、市民や市内企業が求めている人材と若者をマッチングさせ、若者の活躍を促進したいという意見や、若者を市に呼び込むための起業支援、地元企業の就職イベントを開催したい等の具体的な提案が挙がりました。

加えて、市の魅力や良い活動が十分に知られていない課題を解決するため、情報発信を積極的に行いたいという意見も挙がりました。

○浮かび上がるキーワード

若者活躍、若者主体、若者意見の反映、若者向け支援

まちづくり活動、地域貢献、交流、コミュニティ

娯楽の充実、企業マッチング、起業支援、就職支援

魅力向上、情報発信（SNS 活用）

4. 参考資料

4.1. 集合写真

ワークショップの最後に、参加者全員で記念撮影を行いました。



図表 23 集合写真